



聖ウルスラ学院英智報

# ウルスラ 英智

vol.38 2017.9

【本学院の教育実践報告】

ウルスラ英智の教育のいま

【特集】

待望の

「南小泉総合グラウンド」完成



## ごあいさつ

学校法人 聖ウルスラ学院 理事長

梶田 叡一



聖ウルスラ学院英智の推進する人間教育の取り組みについて、日頃から温かいご理解とご支援をいただいておりますこと、まづもって深く感謝したいと思います。

本学院の基本的な願いは、一人ひとりの子どもが豊かな個性を持つ、しっかりした人間として成長し、社会の一員として有意義な動きができるようになる（「我々の世界」を生きる力の涵養）と同時に、自分自身に与えられた生命に感謝し、自らの人生を満足できるものにしていく力をつける（「我的世界」を行きる力の涵養）ことにあります。この目標に向け、必要な学力を着実に身につける（学力保障）と同時に、自分自身の内面世界を充実したものにしてい（成長保障）ことを目指し、教職員一丸となって日々努力しています。

こうした本学院の人間教育の理念は、キリスト教的な伝統の上に立っています。ヘブライズム（ユダヤ教的伝統）とヘレニズム（古代ギリシャ的伝統）を土台に発展してきたキリスト教は、イエスのメッセージに応じて、自分自身に与えられた生命と使命とに感謝し、神の前における個々人の平等と隣人愛、そして無私の精神を実践しようと努めます。そして、その基盤として、知性と理性の耕しを、それによって育まれる英智を、人間性の基本にかかわるとして大事にします。

さらに本学院は、一本杉キャンパスが仙台伊達家の御屋敷の跡に立地するという由緒を大切にしています。仙台の地に花開き培われてきた豊かな文化的伝統を手掛かりとしながら、我が国において優れた先人たちが古来積み重ねてきた深い精神文化を、次の世代を担う子どもたちに着実に身につけさせていきたいと願っています。

私たちは、こうしたグローバルなキリスト教と日本の精神文化という伝統の上に立って、世の中のために働く力も、自分自身に固有な内面世界に依拠して生きる力も共に育つ人間教育の実現に向け、日々の教育的取り組みに努めております。

このような本学院の教育のあり方について、改めて深いご理解をいただき、倍旧の温かいご協力ご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

## [本学院の教育実践報告]

### ウルスラ英智の教育のいま

本学院の教育は、聖アンジェラが始めた教育から数えて、  
創立482年の不易なる伝統教育と  
時代を見据え社会のニーズに応える未来型教育の叡智を求めて、  
教育の研究開発のために教職員の日々の研鑽が、  
子どもたちの成長段階で見せてくれる成長パワーを検証しながら前進し続けております。



幼稚園	・遊びを通して、育てていきたい豊かな心……………4
	・聖ウルスラ学院英智 幼・小接続教育を目指して……………6
	・宗教教育を通して、神を知り、祈るころ、感謝のころ、人を大切にすることを育む……………6
小・中学校	・「論理的思考力と表現力」を育む 言語技術教育に取り組んできたこの10年の成果とこれからの課題……………8
	・ESDの取り組み……………10
高等学校	・To be“Independent, Kind Challengers” 特別志学コースType2 グローバル実践 U-MoG……………12
	・特別志学コースType1/特別志学コースType2/尚志コース 各コースの取り組み……………14

特集

# 待望の「南小泉総合グラウンド」竣工

サッカーグラウンド、テニスコート、陸上競技直線走路等を備えた全天候型・バリアフリー、総面積10,000㎡の総合グラウンドが、一本杉キャンパスより徒歩5分の南小泉エリアに完成!!

## 9月5日(火) 祝別式が行われました

晴れ渡る青空のもと、教育関係者、協力企業、近隣自治会関係者など、多くのお客様をお招きして落成を祝う祝別式が行われました。カトリック仙台教区の平賀徹夫司教様による祝別の儀が厳かに執り行われ、仙台伊達家第十八代当主の伊達泰宗様からはご祝辞を賜りました。また在校生によるグラウンド競技開きも披露され、元気よく駆け出す生徒たちに温かなまなざしが向けられました。地域の防災拠点も兼ねた新しいグラウンドには、子どもたち、教職員、そして地域の方々の喜びと熱い期待が寄せられています。



サッカー・トラック競技・ソフトボールグラウンド



テニスコート4面(オムニコート)



陸上競技直線走路



ロングパイル人工芝



クラブハウス棟



### ◎競技施設

- テニスコート4面(オムニ)
- サッカーグラウンド
- 陸上競技トラック
- 陸上競技直線走路
- 走り幅跳び砂場
- ソフトボールグラウンド
- その他

※運動会にも使用します

### ◎施設案内

- 男女更衣室
- 男女トイレ
- 多目的トイレ
- 体育用具倉庫
- 防災倉庫
- 駐車場(20台)
- 駐輪場
- 防犯カメラ
- 防犯灯
- 夜間照明灯
- 熱中症予防ミスト
- 地域解放エリア
- 「あらぎの小道」

落成に際し、お祝いを頂戴いたしました。心より御礼を申し上げます。

- 宮城教育大学 様
- 東北福祉大学 様
- 株式会社七十七銀行 様
- 株式会社齋宮ビル 様
- 西松建設株式会社 北日本支社 様
- 株式会社東洋環境開発 様
- 三菱UFJ信託銀行株式会社 様
- 株式会社ビルワーク 様
- 宮城商事株式会社 様
- ミヤデンとうほく 様
- 木ノ下町内会 様
- 学校法人聖ウルスラ学院 理事 様
- 聖ウルスラ学院英智小・中学校、高等学校 父母教師会 様
- 聖ウルスラ学院英智高等学校 同窓会 様
- 杉美会 様
- 個人(中野 様、若生 様)
- 株式会社中外印刷所 様
- 株式会社東陽写場 様
- 株式会社アド東北プロ 様
- 有限会社ブルース・インターフェイス 様
- 佐々木公認会計士事務所 様
- 株式会社建財社 様
- 大橋調査株式会社 様
- テルウェル東日本株式会社 様
- 株式会社SJC 様
- 仙台富士交通株式会社 様
- 有限会社フタバタクシー 様
- 株式会社レバスト 様
- 仙台キリンビバレッジサービス株式会社 様
- 東北電力株式会社 仙台南営業所 様
- 株式会社興盛工業所 様
- 太平電気株式会社 様
- 東通インテグレート株式会社 様
- 株式会社リメイン 様
- 株式会社最幸クリエイト 様
- 株式会社小山商会 仙台支店 様
- 株式会社宮城県環境保全研究所 様
- 株式会社近畿日本ツーリスト東北 様
- 東日本チェコム株式会社 様
- 株式会社高勝リフォーム 様
- ローザ洋菓子店 様
- 仙台南小泉1丁目セブン-イレブン 様
- (順不同)

## 在校生の喜びの声

### ◆小・中学校 陸上競技同好会

主将 佐々木 美涼

私たち陸上競技同好会は、宮城野原陸上競技場が学校の近くにあることから、競技場で練習することがあります。ただし、徒歩での往復時間が意外にかかることと、利用料がかかるというデメリットのため、学校内での練習が主でした。学校内の練習では、人工芝の小さい方を主に利用し、メニューを工夫して活動してきました。

南小泉総合グラウンドについては、移動時間の短さと、走る距離によってタイムが正確に計れることに魅力を感じています。今後、高校生との練習場所の割り当て等の問題はありますが、間違いなく今まで以上に練習内容の幅が広がると思います。

私は、仲間とともに南小泉総合グラウンドで、目標に向かって頑張りたいと思います。

### ◆高校 男子ソフトテニス部

主将 松山 大悟

2017年9月、ついに新しいテニスコートができました。私は中学校からウルスラ英智のソフトテニス部に所属しており、この日が来るのをずっと待ち望んでいました。

私は入学する時、「6年間でインターハイを目指します!」と校長先生に約束しました。高校生になり、一緒に全国を目指してくれる仲間たちが様々な中学校からたくさん集まりました。それに続いて今年の1年生もたくさん入部し、今では、中学生男女、高校生男女の総勢70人ほどになりました。

それに合わせるかのように新しいテニスコートが完成したのです。今までは2面のコートをやくりくりしていましたが、それが新たに4面もオムニ(人工芝)のコートが増えるのです。今後、ますます高度な練習に取り組みそうです。このような素晴らしい環境を整えてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。期待に添えるようにこれからの練習を日々努力していきます。

### ◆高校 女子サッカー同好会

主将 宮腰 萌

サッカー同好会の学内での練習場所はグリーン広場です。広場は最初、ブロック敷きだったと聞いています。それが人工芝になり、夜間照明、ネットと徐々に整備されてきてはいました。遠いとはいえ、鶴巢のグラウンドで合宿もできました。

しかし、グリーン広場の広さは正規のコートの9分の1。ショートパスや対人の練習にはうってつけなのですが、ロングパスをするには十分な深さがとれません。また、正規のコートでサッカーをすると、距離感や見え方が違うということもありました。

このたび、新しくハーフコートの広さのグラウンドが完成しました。これからは、広さを生かした練習内容、特にロングキックや豊富な運動量の確保など、今までとは違う視野をもってサッカーができるかと期待しています。

このような素晴らしい環境でサッカーができることに感謝し、日々練習に励んでいきたいと思っています。

# おもしろい! たのしい! から子どもたちが学ぶこと

自由に楽しんで遊んでいるうちに  
「創造する力」「感じる力」「挑戦する力」など  
生きていくために必要なさまざまな力を  
身体全体で吸収し、日々成長をしています。



～遊びを通して、育てていきたい豊かな心～



晴れた日は屋外で元気いっぱい遊ぶ子どもたちの姿が見られます。この日は、年中つぼみ組の子どもたちがみんなで裸足になって思い切り砂場で水遊びを楽しんだり、水浴びするアヒルを観察してみたり…。季節によっては、サクラ・ウメ・ブドウ・ビワなど、園庭になる木の実を拾って遊ぶ様子も見られます。

遊びの中でうまれる、“ひらめき、交流、感情”のひとつひとつが学びの瞬間となっています。



## 広い園庭で のびのび遊ぶ子どもたち

砂や水に触れて、感触を楽しみ、友だちと一緒に遊ぶ面白さを子どもたちは遊びを通して体感していきます。



なつまつりおみこしづくり(縦割り活動)



つぼみ組と花組で意見交換

昨年からはまった縦割り活動による“おみこしづくり”。年長組のアイデアをもとに、今年も年中組と協力をして取り組みました。



「美味しそうなかき氷、できたね!」



「花火も作ろう!」

【花2組・つぼみ2組の場合】

まつりといえば、屋台!「屋台のおみこしを作ろう!」という声が上がリ、子どもたちの気持ちはひとつになっていきました。かき氷、たこ焼き、わたあめ、きんぎょすくい…子どもたちからたくさんの意見が出た中で、この4つを作ることに決めました。品物作りは年中組が担当。年長組は土台作りや色塗り、看板作りを中心に取り組みました。「おまつりといえば花火!」「花火も飾りたい!」完成が近くとともに、どんどん気持ちが盛り上がっていく子どもたちの姿が見られました。そして、完成!子どもたちから大きな拍手がわき起こりました。



花火を貼って完成!!

なつまつり当日

おみこしの名前は『おまつりおみこし』



みんなで  
ワッショイ!!

当日はたくさんの保護者の方に見守られる中、完成したおみこしを誇らしげに披露する子どもたち。

達成感を胸に、笑顔いっぱい、おみこしを担ぎ、かけ声と共に練り歩く姿がみられました。

フィンガーペインティング

筆や道具を使わずに、自分の指や手で絵を描いたり、形を表現したりする活動「フィンガーペインティング」。

夏にしかできないダイナミックな遊びとして、年少ふたば組は毎年取り組んでいます。たっぶりの絵の具を使い、色を混ぜたり滑らせたりと自由に色々な発想で楽しめます。紙に手型をつけ、色が重なる様子を夢中になる子どもたち。ひとりひとり個性もありますから、楽しみ方もそれぞれです!

イーイー!! からだじゅう いろだらけ!



なわとび がんばるぞ!

年中児は秋の運動会で、参加賞として跳び縄をもらいます。それまでは長なわとびを楽しんでいた子どもたちですが、年長児が一人跳びをする姿を見て、憧れを抱き、自主的に取り組むうちに少しずつ跳べるようになってきます。子どもたちが感じた「おもしろい!」「楽しい!」という思いが頑張る気持ちにつながっているようです。

笑顔でジャンプ 1、2、3...



いっぱい とべたよ



年長になって、なわとびチャレンジカードを作りました。跳んだ数の分、星に色を塗っていき、全部の色が塗れるように自分の目標を目指して練習していきます。

## 聖ウルスラ学院英智

# 幼小 接続教育を目指して

3才から18才までの一貫した学びを考え、実践しようと検討を重ねています。特に幼稚園と小学校を接続した「学び」のあり方を考え、子どもの成長発達段階を見据えた教育改革をすすめようとしています。

まず、お互いの学校、園を知ることから始め、校園の行事に賛助出演したり、学校探検、授業体験、英語交流会、小学校教師による出前授業など、交流を深め、より良い連携に繋がる教育を行っています。



サントレの時間  
※「漢字かな交じり」の美しい言葉、優しい言葉、  
尊い言葉に親しみ、考えて話す力を養う教育  
プログラムです。

### 小学校ってどんなところ？

年長花組は  
聖ウルスラ学院英智小・中学校へ訪問し、  
小学校の授業を初体験しました。



メディアセンター(図書館)では、外国のお話を読み聞かせしてもらいました。読み終わった後、内容について先生からの質問があり、元気に「はい!」と手を挙げ、まるで小学生のように答える姿が見られました。

音楽室では音楽に合わせて元気に体を動かしました。子どもたちがよく知っている「さんぽ」の曲に合わせて歌ったり踊ったり、楽しい時間を過ごしました。

1年生の教室では「サントレ」という授業を受けました。小学生の椅子に座って先生と対面し、物語を聞いて出てきた漢字の読み方を教わりました。少し難しい言葉や漢字に触れたことで、学校の勉強をした!という気分を味わえたようでした。

ドキドキ、ワクワクの授業体験。来春、進学をする子どもたちにとって良い経験になりました。学校の先生方に「静かに上手にお話が聞けたね」と、たくさん褒めてもらい、嬉しい気持ちをいっぱい幼稚園に帰ってきました。



絵本の読み聞かせ



音楽の時間



小・中学校メディアセンター  
(図書館)

### 祈りのひととき

～宗教教育を通して、神を知り  
祈るころ、感謝のころ  
人を大切にすることを育む～



年長組になると『聖ウルスラ修道会一本杉修道院』へ行き、幼い子どもたちなりに、修道院の雰囲気に触れ、「祈り」の大切さを考える機会があります。子どもたちは聖堂で聖歌を歌ったり、シスターの方より神さまのお話を聞くことを楽しみにしています。

今回は「善きサマリア人」の話で、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。美しいステンドグラスの聖堂の中、静かな祈りの時間を過ごしました。



聖ウルスラ修道会一本杉修道院



修道院の庭(聖アンジェラ・メリチ像)



聖マリー・ド・レンカルナシオン像



第76回 全国教育美術展

平成  
28年度

教育委員会賞(地区学校賞) 受賞  
聖ウルスラ学院英智幼稚園



【特選】「しまうま」  
西村 輝道(年長・5才児)



【入選】「いもほり」  
佐藤 一花(年長・5才児)



【入選】「おかあさん」  
川田 陽人(年中・4才児)



【入選】「うんどうかい」  
中野 奈央(年長・5才児)



【入選】「いもほり」  
千葉 奈央(年長・5才児)



【入選】「わたしのかぞく」  
上中 春陽(年長・5才児)

第35回 みやぎ児童画展 — 第47回 世界児童画展 同時出展



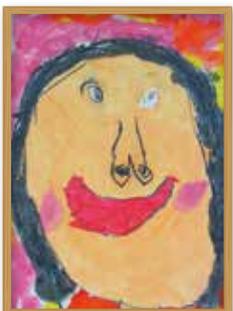
みやぎ児童画展【特選】  
世界児童画展 【入選】  
「かめ」大石 康輔(年長・5才児)



みやぎ児童画展【特選】  
世界児童画展 【入選】  
「おとうさん」松田 一冴(年少・3才児)



みやぎ児童画展【特選】  
世界児童画展 【入選】  
「おかあさん」大友 瑛葉(年中・4才児)



みやぎ児童画展【特選】  
世界児童画展 【入選】  
「おかあさん」佐藤 寿春(年中・4才児)



みやぎ児童画展【特選】  
世界児童画展 【入選】  
「ねこのかぞく」松田 菜々(年中・4才児)



みやぎ児童画展【特選】  
世界児童画展 【入選】  
「いけめんねこ」増田 いち花(年中・4才児)

みやぎ児童画展【入選】  
世界児童画展 【入選】  
「しごとをしているおかあさん」  
中野 奈央(年長・5才児)

みやぎ児童画展【入選】  
「おかあさん」  
「おはなにおみずをかけているおかあさん」  
「たのしいおさんぽ」  
「しごとをしているおかあさん」

鈴木 薫乃(年中・4才児)  
岡元 つばき(年長・5才児)  
神村 柚那(年長・5才児)  
佐藤 莉桜(年長・5才児)

# ウルスラ英智の教育のいま

## 小・中学校の教室から



## 「論理的思考力と表現力」を育む 言語技術教育に取り組んできたこの10年の成果と これからの課題

言語技術教育 研究主任〔教諭〕 渡部久美子

全国に先駆け、本校で言語技術教育に取り組むようになって10年が経過しました。児童生徒の「論理的思考力と表現力」を育むために行ってきたこれまでの実践は一定の成果を上げています。今、それらを土台としてさらに子どもたちの資質・能力を育むため、本校では発展的な取り組みを始めたところです。

本校の言語技術教育は、国際社会で一般的に実施されている「Language Arts」をもとに、つくば言語技術教育研究所の三森ゆりか先生が開発したプログラムを導入して実践を行ってきました。授業では、1年生から9年生までの発展的でスパイラルに組まれたカリキュラムにより、徐々に難しい思考を伴う教材を扱いながら論理的な思考のプロセスや表現の方法の学びを積み上げています。特に、平成26年度からは国語科との連携をさらに深めてきました。丸本分析のように読み物教材が多くなる学年を皮切りとし、昨年度から、国語科と言語技術科を同じ担当者が指導する小学校課程すべての学年において、一つのシラバス上に国語科と言語技術科の二つの教科の教材を独自に工夫して配列しています。学習の土台を築く小学校1年次からのこの取り組みは、ことばによる思考と表現の学びを相乗的に高めているといえます。また、そこで得た思考力や表現力は言語技術科の学習にとどまらず、他教科、あるいは教科の枠を超えて大いに生かされていくことになります。

3年前から全学年で取り組んでいるポスターセッション・プレゼンテーション活動は、ESD教育の発表の機会であり、児童生徒の総合的な資質・能力が鍛えられる、教科の枠にとどまらない活動の一つです。ESD教育では各学年で子どもたちが自分たちの身近なところで生まれた疑問や課題に向き合い、たくさんの情報の中から必要な情報を取り出して、それらをもとに仲間や指導者と対話を重ねて論理的に思考を繰り返しながら課題を解決していきます。そして、得た学びを相手に分かりやすく伝えるためにポスターやスライドに表し、筋道立った話の順序、内容を吟味して考

え、発表します。発表の際は相手とのコミュニケーションを重視し、表現の細部にまで工夫を凝らします。公開研究会でのポスターセッション・プレゼンテーションの発表では、毎年、多くの参会者の方々からたくさんの賞賛の言葉をいただいています。また、児童生徒は自分たちが発表するだけでなく、異学年の発表も含め、聞く側の経験も積み重ねていきますので、普段の授業で培っている人の話を傾聴する態度がさらに磨かれていきます。

ただ、ここで、子どもたちにもっと身に付けてほしい課題も見えてきました。人の話を傾聴できることは素晴らしいことですが、傾聴し、受け入れて終わりでは、学びの場で見聞きした内容が本当の意味で自分の糧にはなりません。そこからもっと多角的・多面的な視点で思考を働かせ、疑問を持ったり、自己の考えを省察したり、新たな課題を見出したりする力「それは本当に正しい解釈なのか、ほかの考え方はないか、別の解決方法もあるのではないか」とクリティカルに考える力こそが、自分の人生を切り拓いていく真の力となるのです。第4次産業革命といわれるICTの時代、私たちの身の周りにあふれる情報はいつも正しく役立つものとは限りません。だからこそクリティカルに物事を見て、考える力が、これからの社会を生き抜く子どもたちに求められるといえるのです。

今年度はこれまで取り組んできた言語技術教育を充実させ、ESD教育、NIE教育との連携をさらに強固なものとし、研究を進めていく計画です。研究主題は「論理的思考に基づくクリティカルなもの見方・考え方を鍛える教育実践」と定めました。本校はこの研究主題で、文部科学省国立教育政策研究所の教育課程研究指定校（論理的思考）として2年間の認定をいただいています。言語技術教育で育んできた論理的思考力をさらに向上させながら、子どもたちがさまざまな情報をクリティカルに捉え、自力で課題解決していける資質・能力を育てていくために、教職員一同思いを一つに取り組んでいく所存です。



分析

「絵の分析」の授業です。絵に描かれている情報から場所、季節、時間、天気や人物についてなどを細かに読み解きます。(F2年生)



分析

隣の友だちと意見を交換しながら、テキストの主題に迫る読みを追求していきます。(S7年生)



説明

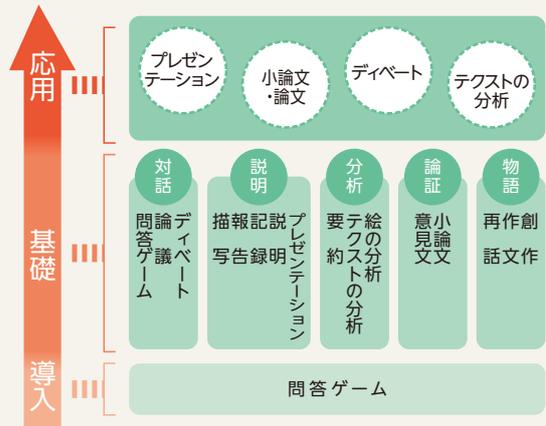
たくさんのお客様の前に、「ミニトマトの博士」になって、学んだことを堂々と説明しています。(F2年生)



説明

大学での学びが社会とどのようにつながっていくのか、大学見学を経験して得た新たな知識とそこから導き出された考えを発表しています。(S7年生)

### 三森ゆりか氏による「言語技術」の体系的な指導プログラム



※つくば言語技術教育研究所 作成



対話

論説文の筆者の主張について、グループ討議で多様な意見をもとにしながら自分の考えを深めていきます。(T9年生)



説明

宿泊学習で追求した「秋田のよさ」について、いくつかのクイズを用意し、お客様とコミュニケーションをとりながら説明を進めています。(S5年生)



説明

日本のアニメの紹介をしながら、「セーラームーン」の話題で参会者の皆様とポーズを決めています。(T9年生)

## ESDの取り組み

(Education for Sustainable Development)

本校は2012年にユネスコスクールに加盟しました。ユネスコスクールとは、ユネスコ憲章に示されたユネスコの理念を実現するため、平和や国際的な連携を实践する学校のことです。世界182か国の国と地域で10,000校以上のユネスコスクールがあります。

日本のユネスコスクールの活動として、ESDを推進することが求められています。ESDとはEducation for Sustainable Developmentの頭文字で、「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と訳されます。これは環境、貧困などの現代社会の課題を意識しながら行動し、持続可能な社会を創造できる人を育む教育のことです。

本校では、主に国際理解を中心とした活動を行っています。本校の特徴である宿泊体験学習を系統的にとらえ、9年次のオーストラリア・ケアンズでの研修を一つの目標とし、それまでにどのように活動すべきかを考えてきました。具体的には他者とコミュニケーションをとり、相手を理解することを大切にしてきました。

今年度の研究は、公開研究会での児童・生徒によるポスターセッションや各学年の活動を、より洗練されたものにする事です。それによってESDとはどんなものなのかを多くの人に理解してもらうことを目標としています。各学年で創りあげる活動が有意義なものとなるような研究とします。



オーストラリアでの語学研修で、取り組んできた研究成果を英語で発表し、現地の学生とともに相互理解を深めます。



**ユネスコスクール加盟6年**

本校はユネスコの理念に沿った国際理解教育、地球規模の諸問題への積極的な取り組みを継続的に実施していることが認められ、県知事部局～日本ユネスコ国内委員会事務総長(文部科学省国際総括官)からの申請を受け、2012年にユネスコ本部より認可されました。

◎グローバルリーダー育成のためのニュージーランド中期留学  
2015年度よりニュージーランド中期留学を始めました。これは、オーストラリア研修旅行を経験した9年生が、更にステップアップするための企画です。

## 新聞を活用した教育実践 NIE (Newspaper in Education)

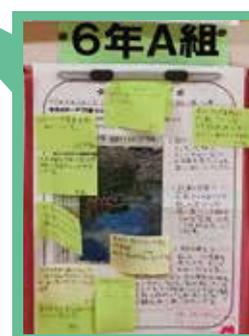
■今年度のNIE研究目標は、「児童生徒が新聞を活用して、論理的思考に基づくクリティカルなもの見方・考え方を身につけることを目指す。」です。

この目標のもと、さまざまな取り組みを行っています。その中心となっているのが、全学年で行っている「この記事に注目!」です。新聞記事を読み取り、内容を要約してそれに対する意見を書くものです。昨年度からは、この意見を他の生徒と交換し合う時間を設ける「NIE交流会」も各クラスで実施しています。交流会をした後、クラスの中で面白い作品を1階のNIE掲示板に貼り出し、異なる学年の作品も見ることができるようになっています。

その他にも学年に応じた活動を取り入れています。新聞は生徒にとって難しいこと(テレビ欄やスポーツ紙面以外)ととらえられがちです。今年度は、その「堅さ」を取り除き、気軽に情報を集め、友人と意見を交わし合うツールとして活用できるように取り組みを増やしていきます。

### NIEとは…

「Newspaper in Education」の頭文字を取ったもので、新聞を教材化することにより、授業を活性化しようとする取り組みのことです。基礎的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度が養われることが期待できます。



## 各学年のESD活動のテーマと取り組み

### First Stage 1年



1年生の活動テーマは「**ありがとうがいっぱい**」です。元気にあいさつをすること、周囲の人に感謝の気持ちを持ってよいと思うことを進んで行うことをがんばっています。教室には「あいさつの木」を掲示して、あいさつができれば実がなります。

### First Stage 2年



2年生の活動テーマは「**チョウを育てよう**」です。子ども達は学校の畑で見つけたモンシロチョウの卵やアゲハチョウの幼虫を大事に育てています。観察を通して、チョウの成長過程や体のつくりなど、たくさんの発見から学びを深めていきます。

### First Stage 3年



3年生の活動テーマは、「**体力向上～健康な心と体～**」です。自分なりに体力を向上させること、規則正しい生活を送ること、心を健康に保つことの大切さを、一つ一つの学校行事を通して学んでいます。休み時間を使って、長距離を走る活動も予定しています。

### First Stage 4年



4年生の活動テーマは「**リーダーとは？～ファーストステージリーダーとして考える～**」です。子どもたちは、運動会や縦割り掃除を通して、全体をまとめることの難しさを実感しています。仲間とアイデアを出し合って、リーダーとしての役割を考え実行していきます。

### Second Stage 5年



5年生の活動テーマは「**大地と人の物語**」です。日常の学びや、宿泊学習を軸とした事前・事後学習を進めていきます。大地（自然・産業・文化・歴史）と人との関わり方の多様性を知り、その奥にある人々の様々な思いや願いに目を向けていきます。

### Second Stage 6年



6年生の活動テーマは「**我が国の文化を知り、誇りを持って相手に伝える**」です。日本文化を見つめ直し、他国の文化に触れながら、自国の良さや文化の特性に改めて気づける学びの場を作っていきます。

### Second Stage 7年



7年生の活動テーマは、「**社会を主体的に生きる人を育む**」です。社会人に生きる人々が持つ社会人基礎力（アクション・シンキング・チームワーク）がどのように仕事で活用されているかを知り、学校生活を通してそれらの力を身に付け、実践する力を養うことを目標としています。夏休み中には大学見学に行き、大学生や教授の話聞きながら、現在の自己の課題を把握し、追求していきます。

### Third Stage 8年



8年生の活動テーマは「**「しごと」を考えよう**」です。7月の宿泊学習や10月の職場体験を通して、世の中にはどんな「しごと」があって、その人たちがどんな思いで「しごと」をしているのかを知り、自分の進路について改めて考える機会になればと思っています。

### Third Stage 9年



9年生の活動テーマは、「**英語でのコミュニケーション能力の活用しよう**」です。『ケアンズ語学研修旅行』のプログラムを通して、他人との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる生徒を目指します。

# ウルスラ英智の教育のいま

## 高等学校の教室から

## To be “Independent, Kind Challengers”



### 特別志学コースType2 グローバル実践 U-MoG

特別志学コースType2では、生徒一人一人の「志」を、「課題解決力」によって実現するため、昨年度より「グローバル実践」という授業を学校設定科目として行っています。これは、全国でも特別志学コースType2だけの特別授業です。

授業では、国内の様々な地域や、アジア各国の社会起業家と連携し、生徒たちが社会の問題を自分に身近な問題として捉え解決策を探ることができます。この力は、生徒たちが今後の社会を生きるための大きな力になります。

授業は主に、very50スタッフと特別志学コースType2の教員が、世界の現状と課題を知る講義形式と、ロジカルシンキングやアイデア出しのトレーニング形式で行っています。年末には、昨年度に引き続き、授業の中でビジネスコンペを行う予定です。また、連動プログラムとして、U-MoG (Ursula-Mission on the Ground) を夏に実施しています。



U-MoG 社会的企業Hoa Ban+ のスタッフとの記念撮影〔ベトナム〕



U-MoG  
ゲストハウスでの活動の様子  
Hoa Ban+ スタッフと生徒の  
顔合わせ〔ベトナム〕



U-MoG  
ゲストハウスでの活動の様子  
商品の持つ課題を探し、  
分析し、解決するトレーニング  
〔ベトナム〕

#### (1) 授業の目的

グローバル社会における様々な課題に目を向け、解決に取り組む「志」を持った「自立した優しい挑戦者」の育成。

#### (2) 授業の目標

グローバル社会の一員として、「誰のために」「どんな問題を」解決するのかを発見、分析し、持続可能な**ホンモノ**の解決策を導き出すことができる力を身につけさせる。

#### 【授業の構成】

4月～ 8月 世界には、課題があることを知る。課題解決の基礎を学ぶ。  
9月～12月 身近なところで課題解決を実践してみる。  
1月～ 3月 世界の課題解決を考えてみる。

#### NPO法人 very50とは…

「自立した優しい挑戦者」を育てるために、

- ・無視できない社会問題、現代に知っておくべき事象をテーマとすること
- ・実践からしか学べない知・スキルの価値をなによりも大事にすること
- ・アジア新興国を中心にグローバルに国内外で活動を展開すること

の3点を主軸に、個人、企業、学校、地域、あらゆるプレーヤーにプロジェクト型教育プログラムを提供しているNPO法人。その中心プログラムであるMoG(超実践型プログラム)の実施を共催していただいている。本校のMoGは高校生として日本国内で2番目、東北では一番最初の実施となっている。

## グローバル実践、U-MoGの活動の様子



**グローバル実践** People Tree 訪問  
日本のフェアトレードの草分け的存在(東京)  
★ビジネスコンペの最優秀チームは東京研修に招待されました



**グローバル実践** 株式会社ポケモン 訪問  
「アイデアとITが相互に補完することによってポケモンGoができた」  
ビジネスモデルの先端を知る(東京)



**U-MoG**  
very50スタッフによる  
トレーニング形式の授業(校内)



**グローバル実践**  
very50スタッフによる講義形式の授業(校内)



**U-MoG**  
事前学習、  
アイデア出しの様子  
(校内)



**U-MoG**  
生徒による商品開発の販売会  
現地を訪れた観光客にリサーチ(ベトナム)



**U-MoG**  
Hoa Ban+の縫製スタッフに  
色生地の組み合わせを説明中  
(ベトナム)



### 「グローバル教育基金」 ご寄附のお願い

日頃より本学院の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。私学である本学院における財政基盤は在校生の授業料、国・県からの補助金、賛同頂ける方々からの寄附金により成り立っております。

本学院に思いを寄せてくださる企業・法人・個人の皆様からのご寄附の用途は、次代を担う奨学金制度の充実や施設整備の拡充等の教育活動に当てられます。昨今の厳しい社会経済状況の中、誠に恐縮ではございますが、何卒ご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

◆お手続き・お問合せは、法人事務局 TEL.022-286-5935まで

## 特別志学コース Type1

### 芸術鑑賞会を体験して

Type1コース長 鎌田 聡

Type1では、毎年1回、中高生全員で芸術鑑賞会を開いています。今年ご足労いただいた柳家三三(さんざん)師匠はもうお馴染みで、みんなで楽しみにその日を迎えました。

扇子と手ぬぐい、そして三三師匠の身振り手振りや声だけで、私たちは時空を超えて物語の世界に遊びます。またType1の寄席は人物を演じ分けるコツや落語の約束事を教えてくださったり、悩みに答えてくださったりするコーナーも人気です。「今年は誰が“弟子”として高座に招かれ実技指導を受けるのか」も毎年大きな関心事です。

私たちの生活はコンピュータが浸透し、動画や音声など、完成された情報であふれています。私たちは、膨大な情報を取捨選択し、再構築していきますが、落語で与えられる情報は、声色や表情の変化という極少のもの。それを各自で読み取り、想像をたくましくして情景や心情を思い描き、そしてみんなで楽しみます。

生徒たちにとっては普段と違う「授業」になっていますが、コース全体で断を共有し、味わい、主体的・能動的に楽しみながら、脳を鍛える時間になっています。



根多帳

## 特別志学コース Type2

### 見えない学力にも向き合いながら

Type2コース長 内海 知子

グローバル時代に求められる「人材」を目指すType2では、グローバル実践の授業を始めとし、あらゆる場で自分の力を社会にどのように活かしていくか、社会の問題は誰かの問題、それは自分たちの問題、ということを考え、様々な活動に向き合います。英語や日本語、仏語や中国語に挑戦することも特徴の一つです。けれど、言葉は出来た方がよいものの、全てではありません。異なるものを受け入れ、互いに尊重し、本当の意味での対話(話すことではありません)を重ねること。グローバルスタンダードのコミュニケーション教育は、文化普遍型のコミュニケーションを目指すものでもあるのです。

今年度からは現在連携を取っている東北福祉大学や東海、青山、法政、中央といった関東圏の大学の他にも、東北大とも密な連携を結び、新たな学びの深化を目指します。学問とは、学び問い続け、人と関わり、よりよいあり方を目指す生きる姿勢のこと。グローバルスタンダードに気づいた生徒達は、本当の「智」を求め、模索し、成長しています。

何事にも全力で。他者を尊重することが自身を尊重することになる実感が持てる毎日を目指し、目に見えない学力こそを大切に様々な挑戦を重ねていきます。



LA Public Speaking Lesson



台湾 文藻外語大学での複言語研修



U-MoG ベトナム企業家問題解決に向けたマーケティング調査



フランス語圏 ニューカレドニア語学研修



留学生とともに国内修学旅行



高大連携授業風景

## 尚志コース

### 尚志コースの「自主自立」

尚志コース長 太田 和幸

尚志コースでは、人間的な成長を実現する教育の面として、日常生活における規律・生活態度の確立の指導の一つとして「尚志コース集会」を継続しています。

集団行動の規律確立と尚志コースへの帰属意識を高めることをねらいとして、毎週火曜日に実施しています。

年間約30回程度を設定し、8時15分には教室を出て静粛に講堂に移動し、8時20分には生徒・担任ともフロアで整列できるように集合します。全員身だしなみを整え、放送部の生徒の聖書朗読で始まり、朝のお祈りを終えた後、準備された内容に入ります。

尚志コースの「自主自立」の目標を意識し、できるだけ生徒自身の活動の機会を多くつくりたいということから、各学年・クラスの代表者が活動報告、大会結果報告、行事に向けての意気込みなどについて発表する場面をつくりあげています。また、同じ尚志コースの仲間が様々な場面で活躍し努力した結果を報告することで努力している仲間を知り、自分をも励ますことにつながるよう意味あるものとして位置づけています。

集会に向けての集団行動が防災意識を高め、協力体制の大切さを育てることに通じていくことをも期待しながら指導に力を入れていきたいと考えています。



**体操部**  
(新体操部)

**1回のために**

尚志コース  
2年 荒木 香乃

私たち新体操部は、7月8日(土)に行われた国体県予選を最後に3年生が引退し、現在、1・2年生合わせて4名の少人数で活動しています。6月に行われた県高総体では目標であった「悔いの残らない演技をする」に一步及ばず、悔しい結果となりました。ですが、私たちはこの悔しさをバネに練習を怠らず、課題の克服、技術向上のため日々の練習を大切に頑張っています。

本番はたった1回しかありません。その1回を不安や緊張に押し潰されることなく、演技を楽しみ、練習の成果を発揮することができれば目標を達成することができます。

自信が持てるよう練習を積み重ね、技術面だけでなく、本番で実力を出し切れる精神面も磨いていきたいです。



**2017年 国民体育大会**  
宮城県予選  
**団体総合 第4位**  
**個人 ボール 第3位**  
遠藤 美羽(1年)

**文芸同好会**

**「みやぎ総文2017」  
文芸部門に参加**

尚志コース 3年 大場 由貴

私たち文芸同好会では、金森悠夏(Type2 3年)が詩部門の宮城県代表として、私が詩分科会委員長として、昨年の「2016ひろしま総文」や「2016文芸東北プレ総文」に参加して準備してきましたが、今回の「みやぎ総文2017」がその総仕上げの大会でした。

文学研修では、二人で「政宗コース」の案内役として全国から参加した詩部門代表の生徒コースの皆さんと瑞鳳殿や仙台城址、仙台文学館などを巡りました。また、閉会式では、この文学研修の報告や分科会の報告を二人でしました。分科会の講師である詩人の和合亮一さんの「書いて書いて自分をつくれ」という言葉は、私たちにとって忘れられない言葉となりました。



閉会式での報告



「みやぎ総文2017」  
作品集を手に

**2016年 高等学校文芸作品コンクール**  
宮城県大会 **優秀賞(詩部門・文芸部誌部門)**

**吹奏楽部**

**変わっていくこと**

特別志学コースType2  
3年 大友みなみ

いつも吹奏楽部の練習、演奏を温かく見守って下さることに、まず感謝いたします。

吹奏楽の醍醐味は、「変わっていくこと」にあると思います。練習すると音が変わる。合わせる人が変わると音が変わる。一人一人の音が重なって、点が線に、線が面に、そして立体になっていく。その変化が実感できるときは心から喜びが沸いてきます。そしてそういう時の演奏が、聴く人の心に一番届くのではないかと思います。

私たちは、コンクールや学内での演奏だけでなく、学外の行事や県内外の中学校への指導など、求められればいつでも気持ちよく応えたいと願っています。音楽を届けるだけでなく、演奏する仲間を増やして地域全体が活性化することが、また自分たちの向上につながると考えているからです。



活動の様子を吹奏楽部専用ホームページやYouTubeにアップしています。ぜひご覧ください。

<http://ursulawindorchestra.jp>



- 2017年 全日本吹奏楽コンクール**  
宮城県大会 **金賞 第一位《海鋒義美賞》**(5年連続7回目)  
東北大会 **金賞**
- 2016年 全日本吹奏楽コンクール**  
全国大会 **銀賞**(於 名古屋)
- 2016年 全日本マーチングコンテスト**  
全国大会 **銀賞**(於 大阪)

**合唱部**

**心に響く歌を歌う**

尚志コース  
3年 伊藤 瑠美

「心に響く歌を歌う」。これが合唱部のモットーです。一つ一つの言葉とそこに込められた想いを大切に、先輩方から引き継いだ歌の世界を響かせたいと日々練習しています。顧問の細川信先生、山口紗智子先生のご指導の下、部員は現在38名います。学校の宗教行事やコンクール、定期演奏会で歌うだけでなく、一本杉教会のミサ、県内の中学校の合唱指導などに招かれることもあります。

目下の目標は、来年の3月に参加する東日本復興支援プロジェクト ハンド・イン・ハンド主催のニューヨーク公演です。つらい時にも喜びの時にも歌は私たちとともにありました。リンカーンセンターで私たちの歌声を通して、世界の人々への感謝の気持ちを響かせたいと思います。



- 2017年 第10回声楽アンサンブルコンテスト**  
全国大会 **銀賞**
- 2017年 NHK全国学校音楽コンクール**  
宮城県大会 **銀賞**
- 2017年 全日本合唱コンクール**  
宮城県大会 **銀賞**

第47回 全国中学校バドミントン大会 【8月22日～25日 佐賀県総合体育館】

男子 学校対抗 第3位

◆男子団体出場メンバー

【主将】 大久保 智也(9年)  
 安保 瑠城(9年)  
 堀 来夢(9年)  
 齋藤 駿希(9年)  
 川端 真人(9年)  
 亀井 晴風(8年)  
 深井 俊椰(8年)



【大会を振り返って】

男子バドミントン部は、団体戦3位、個人戦ダブルスベスト16という結果でした。日頃自分たちを支えてくれている学校の先生方や、保護者の方々、そして指導者の方などのたくさんの方々を支えてもらっているからこそとれた賞だと思います。これからも感謝の気持ちを忘れず、全国優勝を目指し、日々精進していきたいと思っています。

中学男子主将 大久保 智也

女子 学校対抗 第3位

◆女子団体出場メンバー

【主将】 戸崎 雪穂(9年)  
 三輪 朋香(9年)  
 原田 美唯(9年)  
 佐藤 友美(8年)  
 御後 あやか(8年)  
 後藤 咲々(7年)  
 亀井 菜杏(7年)

【大会を振り返って】

私たち女子バドミントン部は、部員全員が一致団結し、団体3位という結果を残すことができました。このような結果を残せたのは、日々の努力の積み重ねはもちろん、家族や先生方がたくさん力を貸してくださったおかげだと思います。様々な人の協力があってこそこの団体3位だと思います。たくさんの応援、ありがとうございました。

中学女子主将 戸崎 雪穂

第68回 全国高等学校バドミントン選手権大会《インターハイ》【7月29日～8月3日 新庄市体育館ほか】

男子 個人対抗シングルス 嶺岸 洸 第3位

男子 学校対抗 ベスト8

◆団体出場メンバー

【主 将】 日野 滋斗(3年)  
 【マネージャー】 寺島 颯大(3年)  
 嶺岸 洸(3年)  
 金子 優太(3年)  
 齋藤 晃輝(2年)  
 三輪 泰輝(2年)  
 長谷川 剛之(2年)  
 佐藤 孝伸(2年)



女子 個人対抗シングルス 鈴木 ゆうき 準優勝

女子 学校対抗 ベスト8

◆団体出場メンバー

【主 将】 鈴木 ゆうき(3年)  
 【マネージャー】 間宮 万梨乃(3年)  
 岡村 あみ(3年)  
 佐藤 仁美(2年)  
 遠藤 理彩(2年)  
 輪島 百耀(2年)  
 宇都 智加(1年)  
 菊地 沙綾(1年)

男子 個人対抗ダブルス 日野 滋斗・嶺岸 洸組 ベスト8

女子 個人対抗ダブルス 鈴木 ゆうき・岡村 あみ組 ベスト8

【大会を振り返って】

私たち男子バドミントン部の結果は、団体戦ベスト8、ダブルス日野・嶺岸組がベスト8、シングルスでは嶺岸が3位という結果でした。優勝という目標には届きませんでしたが全力で悔いのないプレーができたと思います。これからも普段の学校生活、礼儀や挨拶を大切に、応援されるチームでいられるように、日々努力していきたいと思っています。

高校男子主将 日野 滋斗

【大会を振り返って】

私たちの結果は、団体ベスト8、個人ダブルス鈴木・岡村組がベスト8、個人シングルス鈴木が準優勝でした。目標にしていた三冠を達成することはできませんでしたが、精いっぱい戦うことができました。先生方や、みなさんの支えがあったからこそこの成果です。今後は、1、2年生を中心にチーム一丸となって全国の頂点を目標に頑張ります。応援ありがとうございました。

高校女子主将 鈴木 ゆうき

◆第45回全国高等学校選抜バドミントン大会(於豊田市 3月22～26日) 男子シングルス 第3位 嶺岸 洸

女子シングルス 優勝 鈴木 ゆうき

◆オランダジュニア選手権大会2017(於ハーレム市 3月1～5日) 男子シングルス / 男子ダブルス出場 嶺岸 洸

◆ドイツジュニア選手権大会2017(於ベルリン市 3月9～12日) 男子ダブルス 準優勝 嶺岸 洸 (大林拓真/埼玉栄高 組)

◆第44回全国高校選抜卓球大会(於大阪市 3月25～26日) 女子シングルス ベスト16 三浦 奈々(3年)

◎高校総体

◆女子卓球部 女子シングルス 宮城大会 9位 / 東北大会出場 三浦 奈々

◆男子ソフトテニス部 団体 宮城大会 準優勝 / 東北大会 ベスト8

◎県私学大会

◆女子バレーボール部

第22回宮城県私立高等学校バレーボール男女選手権大会 優勝

◎平和へのメッセージfrom知覧 第28回スピーチコンテスト

(主催 鹿児島県南九州市)

特志Type2 2年 太田 葉月 優秀賞(第二位)【高校の部/応募総数2,628通】

タイトル 『生きる、現代(いま)とともに』

●第41回全国高等学校総合文化祭  
みやぎ総文 2017

県代表参加者・団体

◆合唱部

◆吹奏楽部

◆文芸同好会 特志Type2 3年 金森 悠夏

◆書道部 尚志コース 3年 中村 玲菜

◆放送部 特志Type2 3年 鎌田歩乃佳

◆囲碁 特志Type2 3年 栗原 史昂  
 (仙台第一高等学校との合同チーム)



## ウルスラ英智の教育



### 環境が子どもを育てる

聖ウルスラ学院英智幼稚園

園長 佐取 美智子

元気でかわいらしい子どもたちに囲まれ、明るい幼稚園の毎日です。私たちは、今の子どもたちの姿を見ながら、何が大切なのか、何が育って欲しいのかをいつも心に留めて接しています。

ふと、……昔の子どもたちは、何もない所でも数名の仲間と遊べました。何もなくとも、あるものを工夫し、身体を使って、また仲間のことも考えながら、楽しく遊びました。知らず知らずのうちに、人間性の基礎となる部分(感性や体力的なもの)が育っていたのだと思います。しかし、現代は、多くのものが電子化されるなど社会自体が大きく変化し、子どもたちが、遊びを通して生活の基礎となるものを学ぶことは難しいように思います。

日常生活においても、あらゆるものが電子化・自動化され、物事を考える力や体力が衰えていないでしょうか。手を出せば蛇口をひねらずに水が出る。引いたり押さなくてもドアが開く。一言もしゃべ

らず買い物ができる。等々、改めて考えると、本当に便利な時代です。携帯電話でも、調べものや連絡、買い物、ゲーム…でも、この便利な時代を喜んでばかりはいられません。友だちとコミュニケーションを取りながら遊んだり、何かを工夫して遊んだり、また、危険を察知することなどもできない子どもになっていないでしょうか…。

現代のこのような子どもたちをとりまく環境を見据えて、私たち大人は子どもに何を伝えていかなければならないかを考える必要があります。これからどのような社会になっていくのかを考え、その社会に必要なもの、必要な力を育てることが大切です。適切な環境があれば、子どもたちは自ら育ちます。子どもたちの力を信じて、思考力・表現力・諦めない意欲など、生きていく上で大切なものを、この幼児期にしっかりと育みたいと思います。

子どもにとって大切な環境ですが、まずは、温かい家庭があること。安らげる場所があるからこそ、子どもは安心して幼稚園などの集団の中で、遊びを通してさまざまな事を学んでいきます。子どもたちが主体的に成長できるよう、周囲から物的・人的な環境を整えていく事が大切だと思います。



### 持続開発可能な希望と平和を創るエデュケーションとは

聖ウルスラ学院英智小・中学校  
聖ウルスラ学院英智校高等学校

校長 伊藤 宣子

今年も「日本カトリック平和旬間」を迎え、平和と希望を祈る時になりました。20世紀の後半、世界各地では紛争が絶えず、21世紀になってもそれぞれの国や民族、地域の利害が一致せず、人類の願いである平和の実現は達成されていません。教皇フランシスコは今年の世界平和の日に「散発的な世界大戦に直面している」とご指摘をされておられます。

私たち人間を創造し、人間に寄り添い、共に歩んでくださるキリストは私たちに何を呼びかけているのでしょうか。それは「対話」と「祈り」を通じて「和解」へと進む道標を、学校教育に託していると感じざるを得ません。私たちホモサピエンスは抽象的、概念的、総合的認識を作り上げる知性を有しており、成長段階に応じて命の尊厳を学び、心と知性の調和ある教育によって「祈りと対話による深い学び合い」ができる子どもたちの育成が大切であると実感しています。

よく言われることに「三つ子の魂百までも」とあるように、人間の成長段階に応じた幼児期からの教育が重要で、近年の脳科学の進歩により、体験的・体系的・系統的学びの連続性の中で、人間は成長していくとされています。それを日々の教育実践で取り組むことが大切です。イエスのことばに「私は道であり、真理であり、命である」とあるとおり、深遠な叡智を教育の柱としたいものです。

今、社会の変化が急速に進んでおり、すでに2006年経済産業省は社会人の基礎力として「知識、専門知識+3」を掲げましたが、その中の「+3」とは「考え抜く力」「前に進み出る力」「協働力」の3つを指し、21世紀には必要不可欠な力としました。高校3年生の18歳が国民主権者となる時代、教育界の課題も多い中にありながらも、課題を発見し、検証し、解決する力を身につけられる教育が大切です。

聖アンジェラがウルスラの教育を始めて482年、上記のことを思い、教育共同体としてのミッションとビジョンを持って、パッションを失わず教育を実践していくことで、創立者 聖アンジェラ・メリチの教育の願いを歩み続けることができると感じております。

Piano Violin



生徒募集中  
どなたでも随時入室できます。

### 聖ウルスラ学院英智音楽教室 ～豊かな心を育む音楽を～

聖ウルスラ学院英智音楽教室は、創設70年という長い年月、キリスト教精神を礎に、音楽を愛する多くの皆様のご支援とご協力により支えられてまいりました。

小さなお子様から「大人のための教室」も充実し、共に音楽を学ぶ楽しさを育むレッスンを行っております。

創設  
70周年

ピアノ・ヴァイオリン発表会  
のお知らせ

と き / 平成29年11月3日(金/文化の日) 10:00~18:00  
(予定)

ところ / 仙台市戦災復興記念館

入場  
無料

どうぞ、お誘い合わせしてお越しください。  
●お問合せ…Tel.022-257-0341(平日 14:00~18:00)



# 同窓会だより

## 幼稚園

### 《集まりの日》

幼稚園を卒園してから6年後、2月の第一土曜日に行われる「集まりの日」は、子どもたちにとっても私たち教師にとっても、楽しみにしている行事です。今回、集まった子どもたちは、2011年3月11日の東日本大震災があった年に卒園した子どもたちでした。

短い時間ではありましたが、子どもたちは、園舎、園庭を懐かしみ、久しぶりに再会した友だちと元気に過ごしていきました。6年生になった子どもたちの変わらない笑顔に安心するとともに、大きな成長を感じ嬉しく思いました。

次の「集まりの日」は、2018年2月3日(土)に開催予定です。



平成23年度卒園の子どもたちが集まりました

## 小・中学校

小・中学校では、この春、10回生75名が母校を巣立ちました。この10年間で425名を超える同窓会員となりました。卒業された皆さんは、ウルスラの誇りと自覚を持って、各方面でご活躍されていらっしゃることでしょう。

ここ数年の同窓会入会式では、小学校同窓会長様、高等学校同窓会長様のご臨席とともに、同じ3月に卒業した高等学校の同窓生をお招きして、後輩たちに激励のことばをいただいております。小・中学校の卒業生からみると3歳年上の先輩であり、共に一本杉キャンパスで過ごした仲間。その先輩が、自信と希望に満ちた表情で、志望大学合格の報告とともに、壇上から後輩たちに語られる姿は、本当に輝いて見えます。今回は自治医科大学に合格を決めた先輩2人が来ていただきました。後輩たちは憧憬と尊敬の思いで先輩のことばを受けとめ志新たに次の日卒業式を迎えたようです。このように若い同窓会員のエネルギーは、これからも後輩たちに受け継がれ、地の塩、世の光となってお活躍されることでしょう。

会員の皆様、いつでも懐かしい先生方と新しい学び舎をいつでも訪ねていただき、旧交を深めていただければと思います。今後の同窓生のご活躍を心よりお祈り申し上げます。(同窓会事務局より)

## 高等学校

### 《同窓会の昨今》

オリンピックに沸いた昨年。その感動も冷めやらぬ今年、待望のグラウンド(学校から徒歩5分程の場所)用地の借用が実現し、この秋から使用が可能となりました。総会でこの事をお伝えすることができ、参加者全員で歓声を上げました。とりわけ、今年3月卒業の同窓生の歓声は特筆すべきものでした。ご尽力くださいました皆様に心から感謝申し上げます。

母校の発展を支えるべく、同窓会は以前より厚い生徒会活動、教育基金への支援を決定いたしました。また、同窓生の活動支援への予算付けを行いました。

同窓生たちの日々の姿の中に聖ウルスラ学院の精神を体現できますよう、今年も活動して参りたいと考えております。

尚、今年11月16日(土)、校地敷地内聖堂にて「帰天された恩師と同窓生のための追悼ミサ」を、ミサ後に「忍ぶ会」を杉美会館にて予定しております。

会長 今野 麻里

## 卒業生からのメッセージ

平成4年度 高校卒業生  
フリーMC 牛沢 千恵さん

時計の針を逆回転させて、高校時代の記憶を思い出してみよう……。

今年で43歳を迎えますが、20年以上前の事を思い出するのにその時間はかかりませんでした。なぜなら、「ウルスラでの3年間」は私の中ではとても濃く、深く、楽しく、充実しすぎていたからです。沢山の仲間たちと友情を深め合い、今でも縁あって繋がっている同級生は数えきれないほどいます。

高校2年生の時に、女子意識が高かったのでしょうか、夏の体育の時間にブルマを履くのが嫌で、全学年から署名を集めて校長先生へ提出をした事があります。思いは伝わり、夏でもジャージ姿で体育の時間を過ごすことができるようになりました。

また、各クラスの面白い人物とタッグを組み「校則改正運動」も行いました。当時の校長先生や生活指導の先生方には「前代未聞です。こんなに活発にアクションを起こす生徒会は初めてです。」と微笑み半分、呆れ顔半分で言われたのを今でも忘れません。ひとつのアクションが学院生たちの明るい一歩になったのでは……と思っています。

3年生になると、またもやユニークな仲間たちに声をかけて、生徒会の世界へと足を踏み入れることとなりました。学院祭では様々な先生方のモノマネも披露させていただきました。

人前で何かパフォーマンスをすることが好きだった私は、現在フリーMCという肩書きで披露宴、イベント等の司会業に携わっております。



パーソナリティーを務めるラジオ番組



オリジナルデザインのスマホケース

また、Date fmで毎週火曜日放送の「琉球の風〜ゆんたくタイム〜」のパーソナリティーを務めています。5年ほど沖縄県の石垣島に住んでいた経験を活かし、番組では東北と沖縄を繋ぐ情報を発信しています。またラジオ3では毎月1回音楽番組を担当しています。これがまた不思議なもので、一緒に番組を進行している相方がウルスラでの同級生なのです。他にも趣味の延長でLINEスタンプの絵を作成したり、スマホケースの絵柄をデザインしたり、奇妙なイラストを描いたりもしています。

人生はどんな風に急展開するか分かりません。でも神様だけは知っていたかもしれませんね……。

多くの友だちの笑顔につつまれて笑っていた私が、時を経て、今ではみんなの笑顔を願いながらマイクの前に立っている事がとても不思議です。今後も様々な経験を積んでいくことと思います。人それぞれに「今しかできないこと」が必ずあります。小さなことでも大きなことでも。これからも私は常に「自分らしく」をモットーに、一日一日を大切に歩んでいきたいと思っています。

# 聖ウルスラ学院英智の教育に寄せて

## 幼稚園 母の会

会長 鈴木 佳子



現在、温かい先生方の保育の元で、聖ウルスラ学院英智幼稚園の年長はな組と年少ふたば組に娘たちがお世話になっております。聖ウルスラ学院英智幼稚園では、日に何度も祈りの時間があります。祈りの間、子どもたちは目をつぶり、ひとときの静寂な時間を持つことができます。

『祈り』とは、場所も選ばず、年齢も地位も名誉も性別も関係なく、誰しものが、いつでもできることです。慌ただしい今の時代、このような静寂な時間を持つことができることは、子どもたちにとって大変重要なことなのではないでしょうか。子どもたちの祈りを見ている時、私は、私の父が好きだった聖書の中の『善きサマリア人(ルカによる福音書10章第25-37節)』の話思い出されます。この話はご存知の方もいらっしゃると思いますが、サマリア人は、当時いわゆる低い虐げられていた民族でありました。道で傷つき半死の状態で倒れている人がいましたが、当時地位の高い、尊敬されている人々が無視して通り過ぎる中、サマリア人はその人に手を差し伸べ、手当ををし、高額な費用まで支払い立ち去ります。幼稚園で子どもたちの祈りの時間に接する時、目の前の子どもたちのように、もしかしたらこのサマリア人も日々祈りを持ち、自らがいつでも隣人を愛する、正しい行動ができるように自然に感じていた人なのかもしれないと思うのです。子どもたちも、この、善きサマリア人のように、弱っている人や傷ついている人を見た時に、さっと手を差し伸べ、言葉をかけてあげられるような人に育って欲しいと願わずにはいられません。

そのためにも、幼稚園で行われる日々の祈りは、人間の基礎を作る幼少期に日常行われていることは、大変重要だと感じています。通園している子どもたちの家庭が、クリスチャンであっても、そうでなかったとしても、この日々の祈りの時間は、子どもたちの根底の人間形成にとって、良い影響を与えてくれているに違いありません。そのような機会を毎日与えてくださっている幼稚園に心から感謝しております。

## 小・中学校/高等学校 父母教師会

会長 赤間 英文



私は、約25年前にサラリーマンで営業の仕事をしていました。当時、上司のお子さんがウルスラ小学校に通っていました。「ウルスラは良いよ。子どもができれば必ず入れたほうが良いよ」と子どもの話が出るというも話をさせていただきました。そして約13年前に生まれた長女は、あの時の上司の言葉が心に残っていた事もあり、聖ウルスラ学院英智小・中学校に入学しました。今では、7年生になり子どもの成長の速さに驚くばかりです。

子どもの一生で考えれば、共に生活し、共に学ぶ時間は親としてはあっという間に過ぎるところでございます。しかし子どもと一緒に学校に寄り添える活動があります。父母教師会です。日頃、児童、生徒たちがお世話になっている先生へ学校への恩返しだと私自身感じております。そして父母教師会の活動を通し、出会った人からいろいろなことを学び、自分自身ももっともっと成長したいと思っております。

6月には28年間続く国際交流支援活動ということで、たくさん的高校生がボランティアで参加していただきました。フィリピンとタイに、衣類、文房具、カバン等仕分けをしてお送りしました。高校生には段ボールへの梱包のお手伝いをしていただきました。そして、9月には父母教師会の各委員会が数カ月前から企画、準備しておりますPTAバザーがございます。この日は、高校生が休日なので来場数が減少することが予想されますが、ぜひ参加できる高校生はお越し下さい。お待ちしております。

今秋に、面積約10,000㎡の南小泉総合グラウンドが完成し、9月5日に落成式が執り行われました。待ちに待ったというよりも、必要なグラウンドを授かったのだと感じております。児童、生徒たちが笑顔でグラウンドを使うことを保護者としてとても楽しみにしております。

ところで、私は小さな花屋を自営でやっております。若い頃は、先祖に感謝をするという場面がありませんでしたが、商売で花を扱うようになり、改めてお墓参りの大切さと先祖への感謝の想いが大事なことだと気付かせていただきました。今の自分が、この世に存在できるのは、両親がいて先祖がいたからこそなのです。ご先祖の徳に感謝し授かった命に感謝しながら、日々、素直な心で、そして謙虚な心で初心の心を忘れず、私自身過ごしていきたいと思っております。

## 聖ウルスラ学院英智小・中学校 教育研究開発学校(教育課程特例校)

### 第13回 英智公開研究会

9月1日現在

#### 【研究主題】

論理的思考に基づくクリティカルなものの方・考え方を鍛える教育実践

- ◎日 時:平成29年**11月25日**(土) **8:50~16:30**(受付 8:00~)
- ◎会 場:聖ウルスラ学院英智小・中学校 一本杉キャンパス3号館
- ◎主 催:聖ウルスラ学院英智小・中学校
- ◎後 援:宮城県・宮城県教育委員会・仙台市教育委員会
- ◎参加費:一般/**2,000円**(資料代を含む) 学生/**無料** <別途ご希望により、お弁当・お茶 計1,000円を申し受けます>



#### プログラム

- 【受付】 時間/8:00~ 会場/講堂前フロア
- 【開会・プレゼンテーション】 時間/8:50~9:45 会場/3号館講堂
  - ◎挨拶 校長 伊藤 宣子
  - ◎児童・生徒によるポスターセッション・プレゼンテーション
- 【全体会】 時間/9:50~10:05 会場/3号館講堂
  - ◎研究主任 渡部久美子
- 【授業1】 時間/10:20~11:05(Tステージ:10:20~11:10) 会場/各教室
  - ◎国語・言語技術(F2)、算数・数学科(F4)、英語(F2)、理科(T8)
- 【授業2】 時間/11:20~12:10 会場/各教室
  - ◎国語・言語技術(S5・T8)、算数・数学科(S5・S7)、英語(T9)
- 【昼食】 時間/12:10~13:00 会場/各教室
  - (お弁当引き替えは3階講堂前フロアです)
- 【分科会】 時間/13:00~14:30 会場/各教室
  - ◎教科分科会
- 【講演会】 時間/14:50~16:20 会場/3号館講堂
  - 講師/文部科学省初等中等教育局 教育課程課教育課程企画室長 **白井 俊氏**
- 【閉会・あいさつ】 時間/16:20~16:30 会場/3号館講堂
  - ◎理事長 梶田 勲一

◎お問合せ/大会事務局 教頭 鹿野 紀幸

# 平成30年度 園児・児童・生徒募集要項の概要

校種	募集定員等	出願日/出願期間	試験日	試験内容	合格発表	オープンスクール等		
幼稚園	3年保育/男女 75名 2年保育/男女 25名 1年保育/男女 若干名	入願書受付 11月1日(水) 入園面接 11月2日(木)	※詳しくは要項・願書をご覧ください 要項・願書配布期間…10月2日(月)～10月31日(火)			〈公開保育〉10月12日(木) 〈入園説明会〉10月14日(土)		
小・中学校	小学校課程 新1年生 (F1年生) 男女 50名	前期 10月16日(月)～ 10月28日(土) ※10月21日(土)・22日(日)を除く 後期 11月13日(月)～ 11月28日(火) ※11月19日(日)・23日(木)・ 25日(土)・26日(日)を除く	11月3日(金・祝)	運動面・知能面・ 生活面の検査 面接(本人と保護者)	11月3日(金・祝)中に 速達発送 12月2日(土)中に 速達発送	〈新小1・中1対象/学校説明会〉 9月16日(土) 14:00～ 〈新小1対象/学校説明会〉 10月7日(土) 14:00～ 〈中学校入試相談会〉 11月11日(土) 14:00～ 〈新中1対象オープンスクール〉 10月14日(土) 13:30～		
	併設型 中高一貫教育学校 文部科学省 指定 教育課程 特例校 研究開発学校	中学校課程 新1年生 (S7年生) 男女 70名	前期 12月1日(金)～ 12月21日(木) ※日祝を除く 後期 12月1日(金)～ 12月21日(木) ※日祝を除く 1月4日(木)～ 1月10日(水) 正午 ※日祝を除く	1月4日(木) 1月11日(木)	総合問題・作文 面接(集団/個別…本人と保護者) ※出願条件に規定あり 総合問題・作文 面接(集団/個別…本人と保護者) 総合問題・作文 面接(集団/個別…本人と保護者) ※出願条件に規定あり 総合問題・作文 面接(集団/個別…本人と保護者)	1月4日(木)中に 速達発送 1月11日(木)中に 速達発送	〈中学入試プレテスト〉 (総合問題・作文) 10月29日(日) 9:00～ 特典①本入試受験料優遇 特典②二筆・青陵合格資料提供	
高等学校	1年 240名	特別志学コース <Type1> 男女 入学者の約20%	奨学生推薦 12月21日(木)～ 1月5日(金) ※12月29日(金)～1月3日(水) 及び日祝を除く 推薦 一般 (含奨学生・専願)	12月21日(木)～ 1月5日(金) ※12月29日(金)～1月3日(水) 及び日祝を除く	1月10日(水) A日程/1月24日(水) B日程/1月26日(金)	奨学生資格取得試験 (国語・英語・数学・社会・理科 各30分) 面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり 学力試験(国語・英語・数学) 面接(本人のみ)	1月11日(木) ※1月10日(水)中に速達発送 1月31日(水) ※1月30日(火)中に速達発送	〈オープンスクール〉 10月14日(土) 13:30～
	特別志学コース <Type2> 男女 入学者の約35%	奨学生推薦 12月21日(木)～ 1月5日(金) ※12月29日(金)～1月3日(水) 及び日祝を除く 推薦 一般 (含奨学生・専願)	12月21日(木)～ 1月5日(金) ※12月29日(金)～1月3日(水) 及び日祝を除く	1月10日(水) A日程/1月24日(水) B日程/1月26日(金)	作文・面接(本人と保護者) ※出願条件に規定あり 学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	1月11日(木) ※1月10日(水)中に速達発送 1月31日(水) ※1月30日(火)中に速達発送	〈特別志学コース 見学会・相談会〉 11月11日(土) 13:30～	
	尚志コース 男女 ※男子・奨学生推薦10名、他 入学者の約45%	奨学生推薦 12月21日(木)～ 1月5日(金) ※12月29日(金)～1月3日(水) 及び日祝を除く 推薦 一般 (含奨学生・専願)	12月21日(木)～ 1月5日(金) ※12月29日(金)～1月3日(水) 及び日祝を除く	1月10日(水) A日程/1月24日(水) B日程/1月26日(金)	面接(本人と保護者または本人のみ) ※出願条件に規定あり 面接(本人のみの個人面接) ※出願条件に規定あり 学力試験(国語・数学・英語) 面接(本人のみ)	1月11日(木) ※1月10日(水)中に速達発送 1月31日(水) ※1月30日(火)中に速達発送		

☆高等学校：一般入試において男子も尚志コースへスライド合格判定をしています。  
ただし、尚志コースに従来から設置しております1年次の特別進学選抜クラスに所属できる力が認められることを基準に男子の尚志コーススライド合格を総合判定します。

### 幼稚園のスクールバス<主な運行路線>

※平成29年度 9月1日現在

※スクールバスのりばは園児の利用状況により多少変更となります

### 小・中学校/高等学校のスクールバス

※平成29年度 9月1日現在

遠方から通う児童・生徒の安全性と利便性を考慮し市内及び近郊へ各コースを設けて通学をサポート。

<運行コース>

- ◆明石台・泉中央コース
- ◆鶴ヶ谷・幸町コース
- ◆太子堂・富沢・西多賀コース
- ◆利府・岩切・仙台駅コース
- ◆紫山・寺岡・高森コース
- ◆みどり台・名取・長町コース

※運行コースにより定員となりました場合は、小・中学校低学年優先となります。  
※上記運行コースは利用者の人数・希望により変更される場合があります。

## 地下鉄東西線開通で、通学がとても便利になりました! 【薬師堂駅】から徒歩わずか10分

### 本学院へのアクセス

●仙台市営地下鉄  
【一本杉キャンパス】  
地下鉄東西線 薬師堂駅下車 徒歩10分  
地下鉄南北線 河原町駅下車 徒歩25分  
【木ノ下キャンパス】  
地下鉄東西線 連坊駅下車 徒歩5分

●仙台市営バス  
仙台駅西口バスプール 市営バス5番のりば (地下鉄五橋駅から乗り継ぎも可)  
※<薬師堂駅行きなど> 若林区役所前下車

●JR仙石線  
宮城野原駅下車 徒歩25分

●自転車通学路



## 学校法人 聖ウルスラ学院

SUG 英智

<http://www.st-ursula.ac.jp/>

聖ウルスラ学院

英智幼稚園	〒984-0047 仙台市若林区木ノ下1丁目25番25号 TEL.022-293-4024 FAX.022-293-4014
英智小・中学校	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-6461(代) FAX.022-286-6431
英智高等学校	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-3557(代) FAX.022-286-7279
法人事務局	〒984-0828 仙台市若林区一本杉町1番2号 TEL.022-286-5935 FAX.022-286-6334

聖ウルスラ学院報 英智報 Vol.38

〔編集委員〕委員長/高橋 直見(法人事務局長)  
幼稚園/平山 裕子・沢田 智恵  
小・中学校/中村 明子  
高等学校/市原 りえ・吉井 恭子・安住 建志  
〔編集事務局〕今野 正則(法人事務局次長)・庄司 良佑  
〔編集協力・製本〕株式会社アド東北プロ